

海老名ささら踊りの唄

オボボンボンヨ オジャジャキジャキヨ

- 1 揃った揃ったよ 踊り子が揃った 稲の出穂より なお揃った
- 2 竹に短冊 七夕様よ 芋の葉にたまりし 水で書く
- 3 丸く丸く 皆様丸く 十五夜お月さんの 丸のように
- 4 さあさ皆様 お唄いなされ 唄じゃごきりよは さがらない
- 5 盆よ盆よと 待ちるが盆よ 盆がおいと 秋がくる
- 6 嫁に行くなら 海老名においで 粋な若い衆が 勢揃い
- 7 松になりたや 道者の松に 通る道者の 日除け松
- 8 お蚕休んだ 今宵のひまに 一寸出ましょか 盆踊り
- 9 蝶よ花よと 育てた娘でも 末は他人の 嫁になる
- 10 花が咲いたよ 海老名の里に つげに さつきに 百合の花
- 11 雨の降る日と 日の暮れ方は 生まれ故郷を思い出す
- 12 オジャジャキジャキヨと 又ジャジャジャキと 太鼓とささらの 合うように
- 13 お月様さえ 夜遊びなさる 若い衆の夜遊び 無理もない
- 14 盆の盆の お十六日に お暇もろうて 宿りにゆけば
村の若い衆に 呼び止められて
よしゃれはなしゃれ 帯切れ申す 帯の切れたは 結びよもあるが
縁のきれたナ 結ばれぬ 結ばれぬ
- 15 揃った揃ったヨ 踊り子が揃った 揃った中へ ちよいと文を投げて
その文や何よと 手に取ってみれば いろはにほへと 惚れたと書いて
何たら お馬鹿が書いたやら 書いたやら